

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム しじみ苑 (B棟)		
所在地	〒824-0511 福岡県田川郡大任町大字今任原3485-1 Tel 0947-41-8050		
自己評価作成日	令和03年12月08日	評価結果確定日	令和04年02月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和04年02月08日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「一人はみんなのために・みんなは一人のために」を思いながら、家庭的中で、共同生活を通して個々の意思・ライフスタイルを尊重しながら少しでも自立した生活が遅れるように、日々支援しています。コロナにより、外部との関わりが少なくなったので、職員一人一人が利用者さんにゆっくりと関わりを持つことで、寄り添いながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに提示し、悩みや・困難な事に直面した時などは理念を思い出しながら実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設しているケアハウス・特別養護老人ホームとの合同での行事参加や・保育園・小学校・中学校との交流を行う。地域の敬老会・文化祭(出品)・神幸祭に参加して交流をしてきたが、今は、コロナによりできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して行政・地域包括支援センターの職員の方々と連携を取りながら、地域の方々と取り組めるように努力している。コロナにより参加ができず、広報誌のみ配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括支援センター・地区の代表・家族の構成でしている。2か月1回の開催の中で、行事・事故報告・困難事例・研修などで感じた事などを意見交換してサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の参加があり、事業所の状況を報告しているので、相談や助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員それぞれが身体拘束について考え、身体拘束をしないケアを実践している。年1回の外部研修と年2回の内部研修を行い、職員間で話し合い理解を深めていけるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い・虐待が行われることの無いように話し合いをしている。仕事の中に気づいた時などは、その時に職員同士で話し合うように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し職員全員が制度に対する理解を深めるように努めている外部の方にも理解を得るために資料等を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学等を含め、話し合いの場を持つようにしている。その中で疑問や不安な点を聞くことで、理解をされ納得して頂けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時には、家族の方に参加して頂くか、意見箱の設置で意見を求めるようにしている。日頃より家族の面会が多くあり、家族には、近況報告・意見・要望などを話せるので、その都度、解決・要望に沿える様に取り組んでいる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り・ミーティングなどを活用し、意見の出しやすい仕組みを作っている。内容によってはその場で話し合っ可能な限り会話する機会を多く設けられるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を維持出来るように又改善が必要であれば要望している。職員間のストレスの要因や悩みなどは、話し合う機会を設けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集については、性別・年齢に関係なく採用している。又、産休や育髄休暇や介護休暇も取り入れ復帰しやすいように支援している。職員の意見も聞いてくれたりと配慮してくださる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修を受講し、内部研修で人権について話し合いながら、意識を持つように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた外部研修への参加を促し、個々の能力の向上に努めている。又、研修で学んだことは、内部研修で報告として発表の場を作っている。資格取得には積極的に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や病院研修などに参加して情報やネットワークに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様・ご家族様に見学に来て頂き、面談をし、身体状況・生活歴などの情報を聞き、職員で情報を共有活用し、本人様が安心して生活できるように向き合いながら信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご意見や要望・不安・施設に対してどのような考えや思いを持っているかなどを持っているかなど、可能な限り理解し、どのように支援していけるかを家族と共に支えて行けるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の意向をしっかり把握し、その方に今何が必要なのかを探りながら対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に思っているので利用者様の気持ちを受け入れながらも、一緒に喜び・悲しみ・怒り・楽しみの関係が築けるように努めている。その中でも尊厳を持ち、共に暮らす中で支えながら学んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に安心して頂けるように、面会時・電話等の本人の情報を取り合っている。職員がすべての支援をするのではなく、家族様に出来ることは行って頂き、共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人の方が来られたら、居室にてゆっくり過ごして頂くように支援している。家族との外出・通院・食事などの機会を取り入れ、交流が途切れないようにつとめている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんの共同生活をする中で、一人ひとりの性格・好み・経験を日頃の会話などから情報収集しながら、入居者さん同士の関係を把握し職員が調整役となっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、今後も何かの縁で関係するか分からないので、いつでも遠慮なく相談にのれるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話・表情・行動等か入居者さんの思いを聞いたり・感じたり・築きなどは職員間で共有し、家族様からも、今までの暮らし方や思い出話などを聞いて本人本位になるように努める。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしさを知るためには、本人・家族・日頃の生活の中からも情報収集を行っている。今までの生活に少しでも近い暮らしができるように支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム・心身の状態を把握し、小さな変化も気づけるように注意し、情報を共有している。状況変化に応じた対応が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時職員間で話し合い、入居者さんにとって何が重要か・何を望んでいるかなどを本人や家族と一緒に検討して、介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活になかで、個人個人の様子・変化に気づき些細な事でも記録するように努めている。職員同士情報共有しながら介護の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんは少しの環境変化・季節の変わりなどで、体調変化・体調不良になりやすいのでその人にあったニーズが求められる。だから、その人に一番良いか、家族・医療などと連携を取りながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況にもよるが、買い物・食事・美容室など本人の意向を取り入れている。町内の行事・併設している施設との交流・保育園・小学校・中学校・ボランティアの訪問など出来るだけ参加出来るように支援しているがコロナのため今は出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向にそって受診介助を行っている。家族が付きそう場合は、情報を共有して医師との連携も取れるようにしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護さんが来援されるので、些細な事・気になる事があれば、尋ねたり・相談出来るので、日々の健康管理などに反映しています。また24時間体制で対応して頂けるので安心できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と随時連携を行いながら、退院までの流れを作るように努めています。医療関係等と情報を図ったり、早期退院に向けて取り組んでいます。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所するにあたり、「看取りに関する指針」の説明をし理解して頂いている。日頃から利用者さんの様子を家族に報告するとともに、重度化した場合は、主治医と連携を図り、家族様・職員全員と話し合い方針を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等に備え、マニュアルを確認したり、研修を行い急変・事故発生時に対応に努めている。意識レベルの反応・顔色の確認・バイタルチェックなどは、訪問看護と連携して対応している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の中で、1回は夜間想定で避難訓練・初期消火訓練・通報訓練を行っています。併設しているケアハウスと合同で消火訓練を行っています。2年に1回は救急救命講習を受講していますが今は、コロナのため受講していません。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、声掛け・介助の仕方など職員間で確認し話し合いながら支援しています。外部研修・内部研修の勉強会を行っています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人がどうしたいか」「本人がどうしたいか」を念頭に置き、日頃の様子を観察する事で「何をしてほしいか」「なにをしたいか」をコミュニケーションを取りながら働きかけています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にな1日の流れはあるが、個々の生活ペースを大切にしている。その人らしく暮らせるように、寄り添いながら支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に好みの服を選んだりして頂いたりする事で、その人らしいおしゃれが出来るように支援しています。訪問美容室に(2月1回)にてカット、又は、昔からの行き付けの美容室に行っています。爪切りは、職員がおこなってます。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人様の希望を把握し参考にしながら提供しています。準備や片付けは、個々の能力にあわせて出来る範囲で手伝って頂けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康チェック・パターンを作成し一目で把握できるように努めている。一人ひとりの体調・病歴等によって調整等が出来るように心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行っている。介助の必要な方には介助を行っている、訪問歯科(週1回)口腔内の状態や義歯状態などを連携を取りながら支援している。夜間時には、義歯洗浄も行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には時間を見てトイレに案内している。職員に訴える方は、その方の様子で把握できるよう努めている。出来る限り自立した排泄に向けて支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より便秘が及ぼす影響などの指導のもと、個々の排便状況を把握し、水分量・食事の内容の工夫等を行い提供している。又、日常生活の中で、少しでも身体を動かす機会を増やせるように心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に合わせて、週2回～4回の入浴を提供している。自分で入浴できる方は見守りにて対応等個々に沿った支援を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息できるように支援している。又、昼食後は、下肢浮腫軽減のため1時間休んで頂いている。夜間はたっぷり安眠出来るように見守りを重視している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を理解する。そして、確認の為にケース記録に確認出来るようにしている。処方内容に変更がある場合は、職員間で情報を共有し、内服後の状態観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し、家事の手伝い（洗濯干し・タタミ・テーブル拭き・食事のかたづけ）をされたり、ぬりえ・パズル・計算など楽しく生活できるようにしえんしています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況によるが、昔からの行きつけの美容室に行ったり、自宅に帰ったり、苑では1年に1回の外食（ドライブ）に行ったりしていましたが、今はコロナのため苑内での散歩を楽しみいしています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭管理は家族にお願いしている。個人の物品購入は、立て替えしている方は、毎月の出金明細書・領収書を確認して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3名の方が携帯を持っている。家族が登録をしている方とのやり取りはしているが、対応できないときは代わりに対応している。その他、家族や知人から電話があった時などは取り次いでいる。手紙も字を書くことの好きな方には支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節感を感じられる様に花や観葉植物・季節の行事の物を飾ったりして、明るい雰囲気作りを心がけている。不安や混乱を招かないように十分配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みなさん、共有スペースで過ごされる時間が長い。お話をされたり・テレビを観たり・パズル・歩行練習をしたりと思いで過ごしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、安心して過ごせるように写真等を飾ったり、家族様のも協力して頂き、使い慣れた物を持っていただくようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握した上で、個々になに出来ることを探りながら、無理をせずに自立した生活が毎日活用できるように支援していきたい。		